

ヨハネ福音書の2:4と21:22の「何の関係があるのか」という言い方は似ていますか？

ASSISTANT

ヨハネ福音書の2章4節と21章22節にある「何の関係があるのか」という言い方を比較してみましょう。

ヨハネ福音書2章4節では、イエスは彼の母マリアに対して「女よ、それがわたしとあなたとに何の関係があるのか。わたしの時はまだ来ていない」と言っています。この節では、イエスは彼の公的な奉仕が始まる前であり、彼の時間がまだ来ていないことを示唆しています。

一方、ヨハネ福音書21章22節では、イエスはペトロに対して「もしわたしが彼が来るまで生きてるように望むなら、あなたには何の関係があるのか」と言っています。この場面では、イエスはペトロに、他の弟子たちの運命について心配するよりも、自分自身の道に集中するように指示しています。

これらの節は、文脈は異なるものの、イエスが対話の相手に、彼らの関心事が主題とは直接関係がないことを指摘しているという点で似ています。どちらの場合も、イエスは対話の相手に、自分たちの理解や関心を超えた大きな計画や時の流れが存在することを示唆しています。

USER

他にも似ている箇所はありますか？

ASSISTANT

ヨハネ福音書の中で、2章4節と21章22節と似た言い回しやテーマを含む他の箇所を探すと、イエスの教えや対話のスタイルに関連するいくつかの節が考えられます。これらはイエスが人々に対して、彼らの理解や期待を超える神の計画や視点を示唆する場面です。

- ヨハネ福音書4章34節：イエスは「わたしの食物は、わたしを遣わされた方のみこころを行い、そのわざを成し遂げることであり」と述べ、自分の使命と神の意志の優先を示しています。
- ヨハネ福音書7章6節：イエスは弟たちに「わたしの時はまだきていない。しかし、あなたたちの時はいつも準備ができています」と語り、神の時の流れと人間の時の流れの違いを示しています。
- ヨハネ福音書8章12節：イエスは「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗闇を歩くことがなく、命の光を持つことになる」と述べ、自身の存在と役割の重要性を強調しています。

これらの節は、イエスが自分の使命や神の計画について話す際の特徴的な言い方や考え方を示しており、ヨハネ福音書2章4節と21章22節との間にある類似点を反映しています。それぞれの場面では、イエスは聞き手が持つ限定的な視点や期待を超えて、神の意志や計画の大きな枠組みを提示しています。